

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 55132306
PUBLICATION DATE : 15-10-80

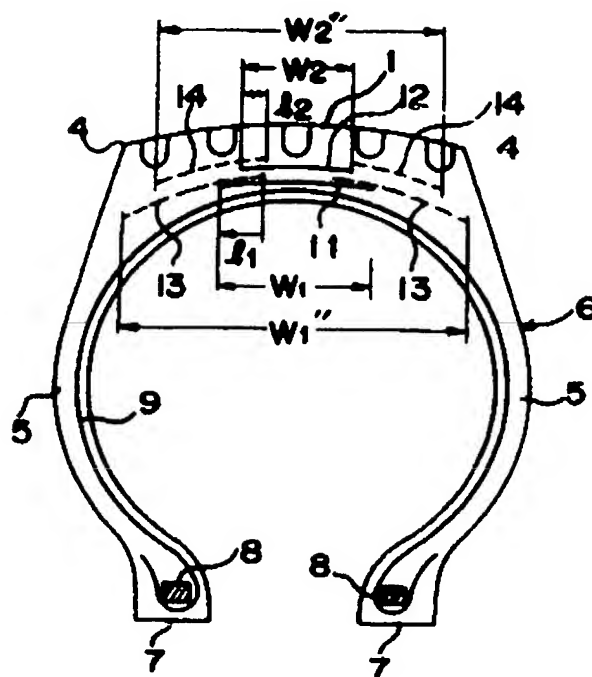
APPLICATION DATE : 28-03-79
APPLICATION NUMBER : 54037450

APPLICANT : SUMITOMO RUBBER IND LTD;

INVENTOR : NAGAYASU HIDEAKI;

INT.CL. : B60C 9/18

TITLE : RADIAL TIRE



ABSTRACT : PURPOSE: To reduce a strip off damage by reducing a breadth of a steel breaker, and extending a textile edge breaker from a steel breaker to a shoulder part thereby reducing a difference of rigidity.

CONSTITUTION: The first and second steel breakers 11, 12 are instituted crossing each other and being provided with steps with a fixed interval, and their breadth W_1 , W_2 are determined within an extent capable of covering the tread center. In the meantime, the first and second textile edge breaker 13, 14 are disposed so that they cross each other, with one end overlapping to a breaker edge of the steel breaker 11, 12 alternatively while the other end extending from the steel breaker 11, 12 to shoulder portions 4, 4, thereby reducing a difference of rigidity between the tread and shoulder portions 4, 4.

COPYRIGHT: (C)1980,JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55-132306

⑤ Int. Cl.³
B 60 C 9/18

識別記号

庁内整理番号
6948-3D

⑬ 公開 昭和55年(1980)10月15日

発明の数 1
審査請求 有

(全 3 頁)

⑭ ラジアルタイヤ

4-503

⑮ 特 願 昭54-37450

⑯ 出 願 人 住友ゴム工業株式会社

⑰ 出 願 昭54(1979)3月28日

神戸市葺合区筒井町1丁目1番
1号

⑱ 発 明 者 長安英明

⑲ 代 理 人 弁理士 青山葆 外2名

神戸市垂水区本多町4-1-25

明 細 書

1. 発明の名称

ラジアルタイヤ

2. 特許請求の範囲

(1) トレッド部に2枚以上のスチールブレーカーを設けたラジアルタイヤにおいて、

周方向に対するコード角が16度~24度の上記スチールブレーカーを、コード角が互いに交差するように設け、その幅をトレッドセンターをカバーする範囲に短縮する一方、周方向に対するコード角が16度~19度の2枚以上のテキスタイルエッジブレーカーを、コード角が互いに交差するように、かつ、上記スチールブレーカーと交互にオーバーラップさせて、該スチールブレーカーからショルダー部側へ延長したことを特徴とするラジアルタイヤ。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、ラジアルタイヤの改良に関する。

一般に、第1図に示す如く、トレッド部1にスチールブレーカー2、2を設けたラジアルタイヤ

3は、耐摩耗性、コーナリング特性、フラットスポット等の面でバイアスタイヤに比べて優れているが、乗心地、ブレーカーエッジ部2a、2aにおける剝離損傷やショルダー部4の片落ち摩耗等の面で劣っている。

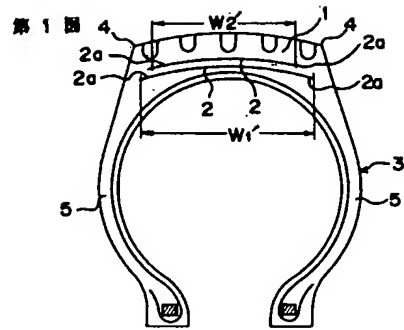
これらの欠点を発生させる要因としては、主としてスチールブレーカー2、2の剛性が上げられる。つまり、スチールブレーカー2、2を介在したトレッド部1とサイドウォール部5との剛性差が著しく大きいことに起因するのである。

本発明は、かかる従来の問題点に鑑みてなされたもので、基本的には、2枚以上のスチールブレーカーの幅をトレッドセンターをカバーする範囲に短縮する一方、2枚以上のテキスタイルエッジブレーカーを、上記スチールブレーカーと交互にオーバーラップさせて、該スチールブレーカーからショルダー部側へ延長して、ショルダー部での剛性差を小さくするようにしたものである。

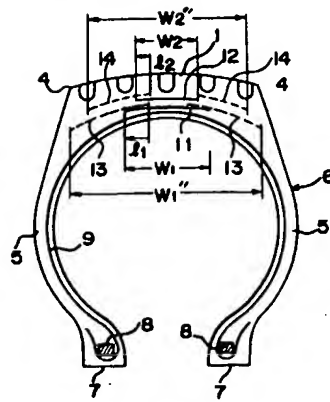
以下、本発明の実施例を添付図面に従って詳細に説明する。

(1)

(2)



第 2 圖



第 3 圖

